

## 5. 一宮町地域公共交通総合連携計画の基本方針と計画目標

### 5-1. 計画対象区域

一宮町内全域を計画対象区域とする。

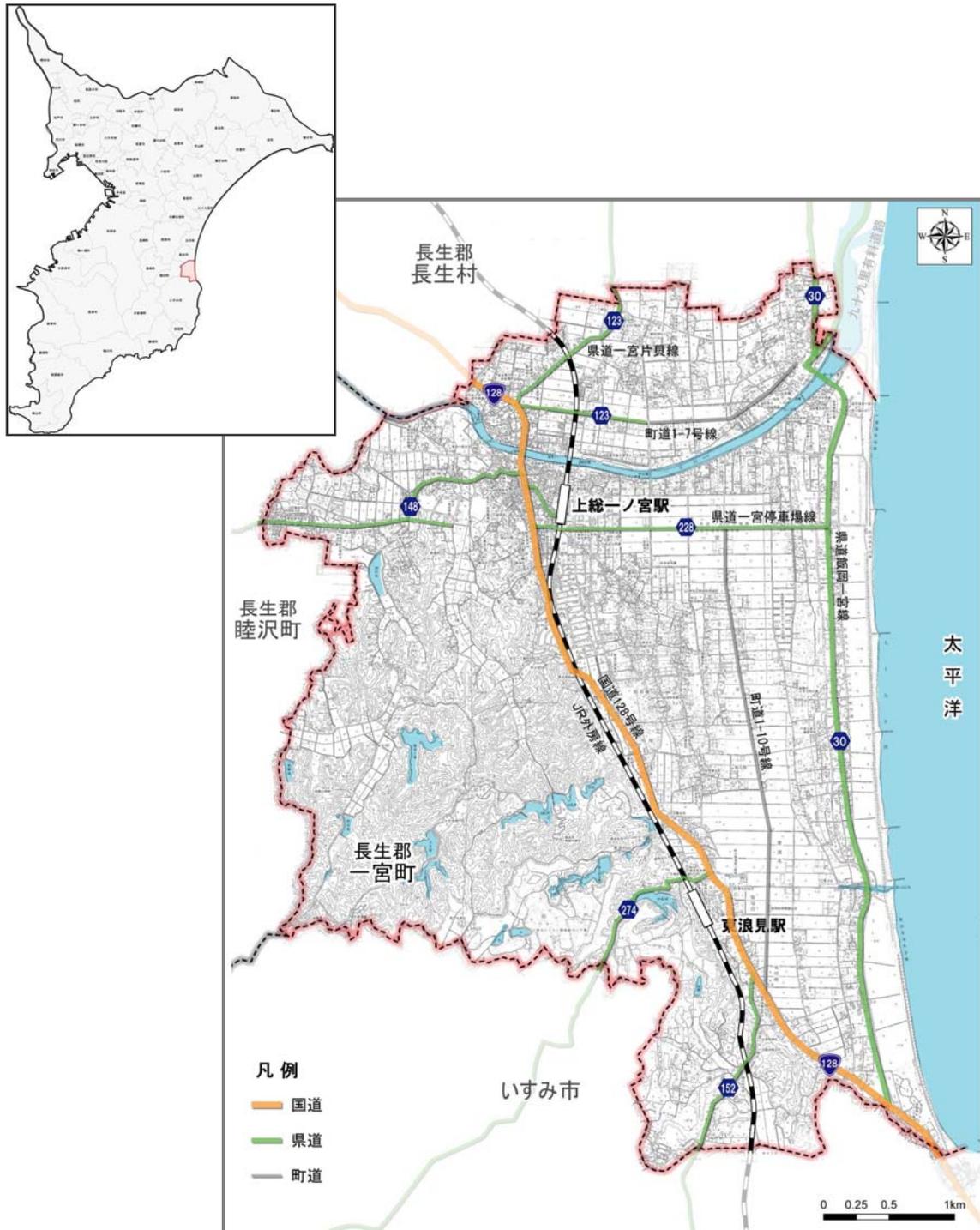


図 計画対象区域

## 5-2. 計画の基本方針と目標

上位計画と、これまでにまとめた現状と課題を踏まえた上で、本町の公共交通における将来像を以下のとおりとする。

将来像

持続可能なまちを育み支える公共交通の実現

将来像の実現に向けて、本計画では以下のような基本方針と目標を掲げる。

### 基本方針

1. 高齢者等の通院交通手段の確保
2. 日常の買物交通手段の確保
3. 通勤・通学交通手段の確保
4. 観光ネットワークの形成

### 基本方針に係わる目標

#### 目標1. 高齢者等が安心して外出できる交通手段の提供

本町では公共交通が十分でないため、日常的な通院や買物の交通手段における自家用車利用の割合が高く、町内外の移動は自家用車に依存していることから、今後さらに進展する高齢化を踏まえて、日常生活が十分に送れる環境を整えるために、高齢者等が通院や買物などで安心して利用できる交通手段を提供することを目指す。

#### 目標2. 小中学生が安心して通学できる交通手段の確保と拡充

小中学生の居住地が町内に広範囲かつ低密度に分散していることから、長距離通学を強いられる生徒や、家族等に送迎してもらうなど家族にも負担がかかっている世帯があるため、子持ち世帯が住みやすい環境にするために、生徒やその家族の負担を少しでも軽減する交通手段の確保と拡充を目指す。

#### 目標3. 地域連携による持続可能な交通体系の構築

一過性のものでなく持続可能な交通手段を提供していくために、住民・地元企業・行政が連携し、公共交通を支えていくためのスキームを構築していくことを目指す。

#### 目標4. 住民だけでなく観光客のニーズに合わせた交通手段の提供

多くの観光客が自家用車を利用し目的地へ直接向かうことため、中心市街地と観光地との連携が希薄である。中心市街地の活性化や来街手段の多様化などの目的のためにも、中心市街と観光地を結ぶ交通手段が必要である。

### 5-3. 将来の理想的な公共交通体系

本計画の基本方針と目標を踏まえ、本町に望ましい交通手段を移動目的別に整理し、本町における将来の理想的な公共交通体系を、次頁に示す。

#### (1) 通勤・通学利用（上総一ノ宮駅利用）

- ・朝時間帯は東京・千葉方面への上り列車に接続し、目的地が上総一ノ宮駅に一本化されるため、ある程度まとまった需要に対応し、速達性と定時性を確保した交通手段が望ましい。
- ・上総一ノ宮駅の利用者は町内のみならず、町外からの通勤利用も多いことから、本町に隣接する市町村と駅を結ぶ交通手段も必要となる。

#### (2) 通学利用（小学生）

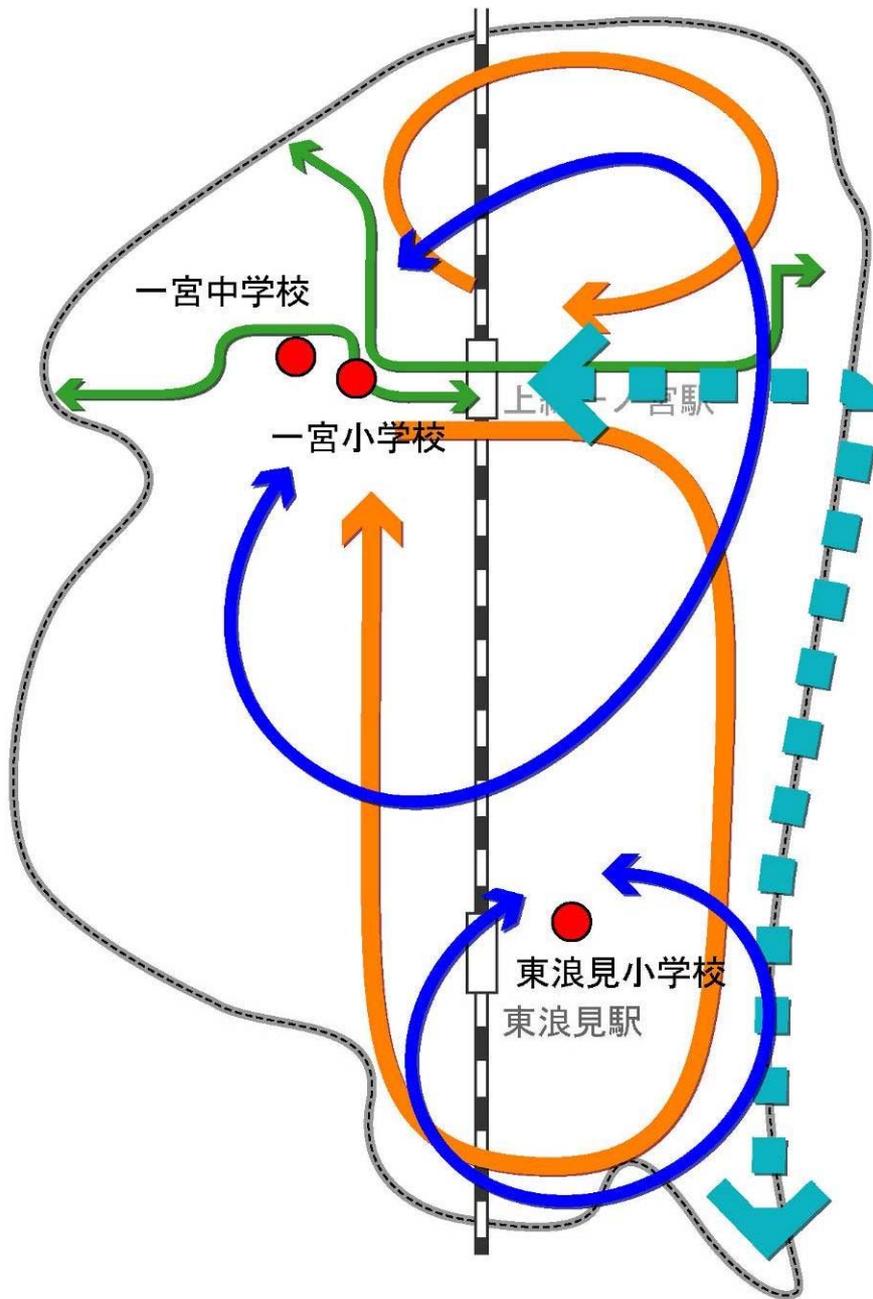
- ・学生の下校時刻は学年によりばらつきがあることから、ある程度下校時間の集約が可能である小学生低学年を対象に、登校に不便な地域における集約的な運行が望ましい。

#### (3) 買物・通院利用

- ・買物については町内商業の利用促進や活性化の視点から、通院については駅周辺に医院やクリニックが集積しているため、特に利用の対象が高齢者中心になることを考慮すると、町内全域でのドア to ドアに近い交通手段が望ましい。

#### (4) 観光利用

- ・上総一ノ宮駅から観光施設や宿泊施設等が多く集積する一宮海岸、釣ヶ崎方面に路線が設定され、東京発の特急列車に接続する交通手段が望ましい。



-  路線バス
-  通学輸送
-  通勤・通学の駅利用者に対応  
買物・通院に対応
-  観光客・町外からの駅利用者に対応

図 将来の理想的な公共交通体系

## 6. 目標達成のための事業

### 6-1. 事業計画と実施主体

将来の理想的な公共交通体系を構築していくにあたり、目標を達成していくための事業計画と概要、および実施主体を以下に示す。

表 目標達成のための事業計画と概要、および実施主体

事業計画	事業概要	事業の実施主体
【事業1】 高齢者を中心とした買物や通院の外出に対応した公共交通の提供	主に高齢者を対象として、通院や買物の際にドア to ドアで利用できるデマンド交通を、一宮町全域で試験運行する。	<del>一宮町地域公共交通</del> <del>活性化協議会</del> ・一宮町
【事業2】 通学や通勤に、より利用しやすい路線バスへの見直しの検討	現在の路線バスに対し、より通学に使いやすく、通勤でも利用できるような経路や運行時刻などの見直し可能性について、事業者との調整を図る。	・一宮町 ・交通事業者
【事業3】 隣接市町村と連携した通勤バス運行の検討	隣接する市町村と連携し、上総一ノ宮駅を利用する町外の通勤客をターゲットとした通勤バス運行の可能性を検討していく。	・一宮町 ・隣接市町村 ・交通事業者
【事業4】 ホテル等の送迎車両を活用した、駅と海岸沿いを結ぶ観光シャトルバス運行の検討	宿泊施設や観光施設の事業者が保有する送迎車両を活用し、施設利用者だけでなく観光客も利用できる、駅と海岸沿いを結ぶ観光シャトルバス運行について、事業者と検討していく。	・一宮町 ・地元事業者
【事業5】 観光客をターゲットとした自転車の活用可能性の検討	観光客と駅周辺とのつながりを強化していくため、公共交通の補助的な役割を果たし、使い勝手がよく、自由自在に移動できるレンタサイクルなどの活用について、検討していく。	・一宮町 ・住民団体
【事業6】 公共交通を地域全体で支え合い、持続可能なものとしていく仕組みづくりの検討	NPO による運行可能性など、地元事業者・行政・町民が協力して公共交通を支え育てる仕組みづくりを、3者が連携して検討していく。	<del>一宮町地域公共交通</del> <del>活性化協議会</del> ・一宮町 ・住民団体
【事業7】 公共交通のPR活動の実施	町の広報とともに、公共交通についてのパンフレットやMAPなどを作成、配布し、公共交通を支えていく活動について、検討していく。	<del>一宮町地域公共交通</del> <del>活性化協議会</del> ・一宮町

## 6-2. 事業の考え方と内容

### (1) 高齢者を中心とした買物や通院の外出に対応した公共交通の提供

- 通院や買物などの外出の際に、自家用車を利用しなくとも安心して外出できるようにする。

町内には大型の商業店舗が少ないものの、アンケート調査より、現状の買物先の半数以上が町内の商業店舗を利用していることから、町内商業の利用促進や活性化の視点から、公共交通の運行範囲は町内に限定する。

また、通院についても町内の医療施設を優先し、長生郡の拠点病院である公立長生病院などの町外の病院へのアクセスは、鉄道利用が現実的と考えられる。

買物の場合、対象施設が広範囲に分布すること、利用する時間帯が分散していることなどから、路線バスのような定時定路線型の交通は向いていないと考えられる。特に利用の対象が高齢者中心となることを考慮すると、自宅付近から目的地までを結ぶ運行形態の交通手段が望ましい。このため、買物・通院利用の交通手段としては、デマンド交通の公共交通が適しているといえる。

デマンド交通の運行の際は、利用者に負担とならない~~よう、運賃は片道200～300円と~~を設定する。

#### ■■■参考事例■■■

##### ○デマンド交通芝山あいあいタクシー（千葉県芝山町）

芝山町では、複数の人との乗り合わせ利用による乗り合いタクシー「芝山あいあいタクシー」を、時刻表に基づき、利用者の希望する場所から目的地まで運行している。

運行範囲は町内全域と、町外の病院まで運行しており、平日と土曜日に運行している。

町内在住者なら誰でも利用可能であり、利用する場合は、利用登録が必要となる。

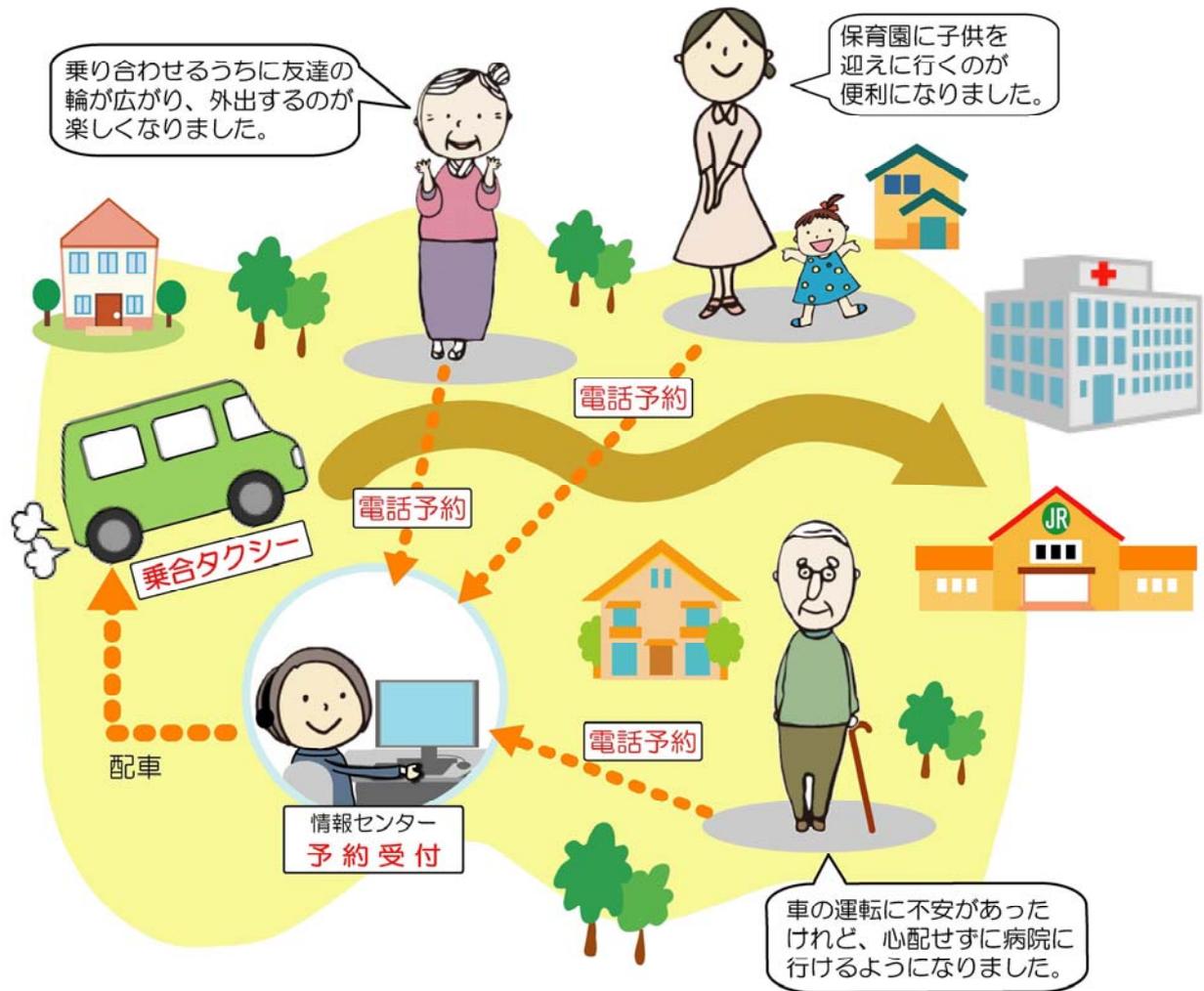
- 運行範囲 : 芝山町内（但し国保多古中央病院は運行）
- 運行日 : 平日および土曜日
- 運行時間 ; 7時（土曜日は8時）から16時まで
- 利用対象者 : 芝山町内在住者
- 登録 : 住所、氏名、電話番号を登録
- 運賃 : 1回200円（病院までは300円）
- 予約受付 : 利用予定の30分前まで



出典：芝山あいあいタクシーパンフレットより作成

～参考：デマンド交通とは～

- ・利用者の予約に合わせて、自宅や外出先まで車が迎えに来て、地域内の行きたいところまで運行するサービス。タクシーの便利さをバス並みの料金で実現。
- ・デマンド交通は、目的地に直行する通常のタクシーとは異なり、他の人も乗り合って目的地に送迎するサービスのこと。
- ・車は乗り合う人の時間に合わせて順に迎えに行き、全ての人をそれぞれの目的地まで送迎する。



## (2) 通学や通勤に、より利用しやすい路線バスへの見直しの検討

- 現在利用している学生の通学手段を確保する。
- 通勤・通学の交通手段としての路線バスを確立していく。

現在、路線バスの利用者は、主に小学生や高校生の一部に限られており、多くの住民が利用できる運行形態となっていないと考えられる。また、一宮海岸から上総一ノ宮駅を経由して茂原駅に至る路線は、廃止予定路線と位置づけられており、廃止された場合は、現在利用している学生の交通手段の確保が、大きな問題となる。

そのため、より通学に使いやすく、もしくは通勤でも利用できるような経路や運行時刻、路線等の見直しの可能性について、事業者との調整を図っていく。

## (3) 隣接市町村と連携した通勤バス運行の検討

- 隣接する市町村から上総一ノ宮駅へのアクセスを高めていく。

上総一ノ宮駅は、東京行きの特急や快速列車の始発駅であることから、駅利用者は町内のみならず、町外からの通勤利用も多いと考えられる。

しかしながら、町外利用者のほとんどは自家用車以外での駅へのアクセスが難しいことから、隣接する市町村と連携し、駅を利用する通勤客をターゲットとした通勤バス運行の可能性を検討していく。

## (4) ホテル等の送迎車両を活用した、駅と海岸沿いを結ぶ観光シャトルバス運行の検討

- 上総一ノ宮駅と海岸沿いとのつながりを強化していく。

本町の海岸沿いには、宿泊施設やレジャー施設が多く立地しているが、その内のいくつかの事業者は、上総一ノ宮駅まで送迎バスを運行している。

観光客のニーズは、特に夏場などは海岸沿いに集中していることから、企業が保有する車両などのストックを活用し、施設利用者だけでなく一般の観光客も利用できる観光シャトルバス運行について、宿泊施設等の事業者と検討していく。

## (5) 観光客をターゲットとした自転車の活用可能性の検討

- 多くの観光客が一宮町を周遊できるようにする。

本町に訪れる多くの観光客は、自家用車を利用して海岸などの目的地を訪れているものの、駅周辺を訪れる機会は少なく、観光客と駅周辺とのつながりが希薄になっている。今後、駅周辺の活性化やより多くの観光客を呼び込んでいくためにも、観光客と駅周辺とのつながりを強化していく必要があることから、公共交通の補助的な役割を果たし、使い勝手がよく、自由自在に移動できる自転車の活用が考えられる。

上総一ノ宮駅や九十九里道路の出入り口付近に、駐車場とレンタサイクルを用意し、JRや自家用車を利用してきた観光客が、レンタサイクルを利用しサイクリングロードを使い町内を周遊してもらう仕組みなどについて、検討していく。

### ■■■自転車活用のイメージ■■■



(6) 公共交通を地域全体で支え合い、持続可能なものとしていく仕組みづくりの検討

- 地域連携による持続可能な交通体系を構築していく。

公共交通を継続的に運行し、利用されていくためにも、公共交通を地域全体で支え合い、持続可能なものとしていく仕組みづくりを構築していくことが必要と考えられる。

そのため、NPOによる運行可能性や、公共交通に対して理解いただける地元事業者や住民からの協賛金募集など、町と住民、地元事業者の連携による仕組みづくりについて、検討していく。

■■■参考事例■■■

～NPOによる公共交通の運行～

○地域のNPO法人による路線バス運営（三重県四日市市）

四日市市羽津いかるが町地区では、平成14年度に唯一の公共交通である路線バスが廃止されたため、地域住民が主体となりNPO法人を立ち上げ、生活バス路線を運行している。運賃収入（1乗車100円）のほか、沿線の協賛事業者からの協賛金と、市からの補助金（月30万円を上限）を収入としている。

また、応援券（定期券）配布（全区間フリーパスで1家族2枚、1,000円/1ヶ月、5,000円/6ヶ月、10,000円/12ヶ月）など路線維持への乗車促進運動の結果、廃止されたバス路線での1日平均約20～30人から、1日平均約100人と、乗車人員が大幅に増加している。

～住民からの協賛金の募集～

○各世帯が毎月回数券を購入（青森県鯉ヶ沢町）

交通空白地域を解消するバス路線の新設にあたり、ガスなどの社会インフラと同様に、バス路線にも住民が負担する基本料金が必要との考えに基づき、世帯当たり1,000円分の回数券を地区全世帯が購入し、路線バスを運行している。

○地域住民からの運行負担金による協力制度（宮城県石巻市）

利用者の減少や市の財政的事情から路線バスが廃止となり、その代替手段として稲井地区が主体となり乗り合いタクシー事業を実施しており、地域住民全世帯から一世帯当たり年間約600円の運行負担金（全世帯で年間約100万円）を協力してもらっている。

○年間利用登録料金制度（宮城県登米町）

米川地区の住民が協議会を立ち上げ、市が行ってきた市民タクシー試行事業を継承し、乗り合いタクシーを運行しており、利用者から利用登録料金として、年間約3,000円を負担してもらっている。

■■■参考事例■■■

～地元企業とのタイアップ～

○すまいるバスでの（福井県福井市）

主に中小商業者が出資しているまちづくり福井株式会社が運行している市街地循環バス「すまいるバス」では、協賛店で2,000円以上の買物をした場合に、「すまいるバス」の乗車券を1枚提供する取り組みを行っている。協賛店は33店舗となっている。

また、車内・車外での広告の掲示も受け付けており、バスの乗客はもちろん、「動く広告」として歩行者やドライバーなど大勢の方に、効果的に訴えることができる、としている。



図 サービス協賛店マップ

出典：まちづくり福井株式会社 HP (<http://www.ftmo.co.jp/>)

(7) 公共交通のPR活動の実施

- 住民や観光客に公共交通を知ってもらう。
- 公共交通に対する理解を深めてもらう。

アンケート調査結果より、にこにこサービスに関する住民の認知度が低かったことから、多くの住民に公共交通について理解してもらい、利用してもらうためにも、公共交通に関する周知活動が必要と考えられる。

そのため、町の広報によるお知らせのほかにも、公共交通についてのパンフレットや地図などを作成、配布をするなど、公共交通を支えて利用してもらう活動について、検討していく。

■■■参考事例■■■

○公共交通マップの作成・配布（全国多数）

路線図や時刻表、利用方法などをわかりやすく提示したパンフレットを作成し、住民に配布や、駅や店舗などの集客施設に設置していくことで、住民や利用者へ、公共交通を知ってもらい利用を促していく。

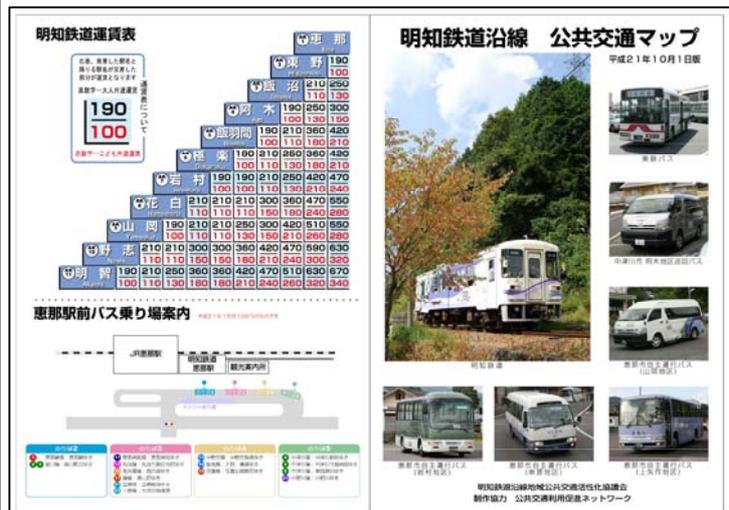


図 天神公共交通マップ（福岡県福岡市） 図 明智鉄道沿線公共交通マップ（岐阜県伊那市）

出典：西日本鉄道株式会社HP（<http://www.nishitetsu.co.jp/bus/tenjinmap/default.htm>）  
 ：恵那市HP（<http://www.city.ena.lg.jp/>）

## 7. 事業スケジュール

### 7-1. 計画期間

本計画は、平成22～24年度の3カ年を計画期間とする。



### 7-2. 事業スケジュール

計画期間における事業のスケジュールを以下に示す。

表 事業スケジュール

事業名	H22 年度	H23 年度	H24 年度	実施主体
【事業1】 高齢者を中心とした買物や通院の外出に対応した公共交通の提供			→	・一宮町
【事業2】 通学や通勤に、より利用しやすい路線バスへの見直しの検討			→	・一宮町 ・交通事業者
【事業3】 隣接市町村と連携した通勤バスの検討			→	・一宮町 ・隣接市町村 ・交通事業者
【事業4】 ホテル等の送迎車両を活用した、駅と海岸沿いを結ぶ観光シャトルバス運行の検討			→	・一宮町 ・地元事業者
【事業5】 観光客をターゲットとした自転車の活用可能性の検討			→	・一宮町 ・住民団体
【事業6】 公共交通を地域全体で支え合い、持続可能なものとしていく仕組みづくりの検討			→	・一宮町 ・住民団体
【事業7】 公共交通のPR活動の実施			→	・一宮町

